

◇ 為櫻学園 光プロジェクト（進路探究） 「データサイエンス入門講座」

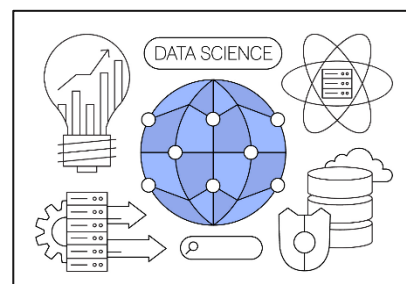
日 時 ○ 令和5年6月2日（金） 16時00分～17時10分

参加者 ○ 本校1～3年生希望者（18名）

場 所 為桜図書館（特別棟3階）

※ オンラインLive形式での実施

＜講師＞ 小森 理（こもり おさむ）先生
（成蹊大学理工学部 准教授）



👉 「データサイエンス」は、現在世界中で最も需要が高い学問分野であり、専門家の育成が急務とされていますが、一方で高校生がそれについて知り、学ぶ機会は豊富だとは言えないのが現状です（各大学の出張講義も大人気で、希望してもなかなか実現しません）。

そんな中、本校の要請に応えてくださったのが、成蹊大学理工学部准教授の小森 理 先生です。今回はオンラインLive形式で、希望生徒に対してデータサイエンスに関する手ほどきをいただくこととなりました。

「データサイエンスとは、データを科学する、または調理する学問です。」

「データは石油に似ています。どちらも加工して初めて価値が生じるからです。」

「見えなかった（気づかなかった）ものを見えるようにする学問だとも言えます。」

「ビッグデータの前処理、構築など、実は地道な作業がほとんどです。」

「ナイチンゲールもデータの集計・分析に長けた統計学者だったことは有名です。『神のみ心を知るには、統計学を知らなければならない』という言葉を残しています。」

…などなど、小森先生のお話に参加生徒は引き込まれていました。

また、小森先生自身は医療統計を専門にされているそうです。「検査値を解析することで、医師にはわからないことがわかるし、利活用できる」と述べておられました。

指数関数的思考、二項分布と正規分布、確率変数と確率分布、アロメトリーの関係式…など数学の用語も頻出し、1年生には難しい部分もあったかと思いますが、それ以上にこの学問が持つ広がり多様性を感じられる1時間となったのではないのでしょうか。〔個人的には、2045年に到来するとされているシンギュラリティ・ポイント（技術的特異点：人間の頭脳と同レベルのAIが誕生する時点のこと）が、「Chat GPTの登場により、もう来てしまいました」とサラリと仰っていたことにショックを受けました。〕

そしてもう一つ印象に残ったのが、「場所は問わないから、何らかの形でデータサイエンスを学んでくれると嬉しい」という先生のスタンスでした。様々な大学や研究機関のホームページ（「〇〇大学の紹介動画は入門に最適です」など）を紹介してくださるなど、データサイエンスという学問を愛

してやまない先生の姿勢も、参加生徒たちには強い印象を残したはずです。講話終了後の質問にも丁寧に答えてくださるなど、充実した時間を過ごすことができました。

小森先生、および成蹊大学の皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

<生徒の感想から>

- ・ 私はデータサイエンス学部に入学したいと思っている受験生なので、データサイエンスの細かいところから教えていただけて、もっとデータサイエンスについて学びたいと思いました。私は初めて興味を持った学部がデータサイエンス学部なので、今までたくさん調べてきたのですが、先生がお話してくださった細かい部分までは、ネット上に載ってないため大まかな部分しか分らなかったのもとても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・ 講話をしていただきありがとうございました！初めはデータサイエンスと聞いても、具体的なものがないと思いがちでしたが、講話を通して様々な分野と繋がっていることや将来役立つ技術であることが分かりました。山手線に沿ってドーナツのような形になっていて面白かったです！
- ・ 自分の中ではデータサイエンスが遠くの未来のように感じられていたのですが、今回の講座で身近に感じられるようになりました。ナイチンゲールなどの偉人を使って分かりやすく学ぶことができました！貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 質問に丁寧に回答していただきありがとうございました。自分は文系で、将来データサイエンスに関わることは難しいだろうと思ってました。しかし、実は文理問わない内容でこれからのIT社会に必要な不可欠になってくる事だなと感じました。とてもデータサイエンスに興味を湧きました。今日はありがとうございました。
- ・ データサイエンスとは何なのかを知るきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・ 小さなデータでもまとめることで関係性が見えてくることがあって面白かった。
- ・ データサイエンスがどういうものかよくわかっていなかったのですがデータの歴史から聞くことが出来てデータサイエンスについて興味を湧きました。

